

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
<b>合計</b>	<b><u>30</u></b>

事業所番号	2773301797
法人名	医療法人 山紀会
事業所名	グループホーム華
訪問調査日	平成 19 年 10 月 15 日
評価確定日	平成 19 年 11 月 14 日
評価機関名	NPO法人 ナルク福祉調査センター

**○項目番号について**  
 外部評価は30項目です。  
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。  
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。  
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

**○記入方法**  
 [取り組みの事実]  
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。  
 [取り組みを期待したい項目]  
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。  
 [取り組みを期待したい内容]  
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

**○用語の説明**  
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
 家族 = 家族に限定しています。  
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。  
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。  
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## 1. 評価結果概要表

作成日 2007年10月22日

## 【評価実施概要】

事業所番号	2773301797
法人名	医療法人 山紀会
事業所名	医療法人 山紀会 グループホーム華
所在地	大阪市西成区千本南1丁目23番28号 (電話) 06-6659-9111

評価機関名	NPO法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪府中央区常盤町二丁目1番8号親和ビル402号		
訪問調査日	平成19年10月15日	評価確定日	平成19年11月14日

## 【情報提供票より】(平成19年9月25日事業所記入)

## (1)組織概要

開設年月日	平成 17 年 4 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	16 人
職員数	13 人	常勤 13人, 非常勤 0人, 常勤換算	12.4人

## (2)建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り
	5 階建ての 2 階 ~ 3 階部分

## (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	42,000 円	その他の経費(月額)	25,000 円	
敷金	有( ) 円 無○			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 300,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,600 円			

## (4)利用者の概要(9月25日現在)

利用者人数	16 名	男性	4 名	女性	12 名
要介護1	4 名	要介護2	6 名		
要介護3	5 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 87 歳	最低	69 歳	最高	93 歳

## (5)協力医療機関

協力医療機関名	医療法人山紀会 山本第三病院	水野歯科医院
---------	----------------	--------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホーム華は医療法人山紀会の組織内にある。建物は地下鉄四つ橋線岸里駅から南へ徒歩約10分、国道26号線から少し西へ入った処で前に公園のある比較的閑静な佇まいである。5階建ての2・3階部分を使用し、1階部分は事務所とデイサービス、4・5階部分は山紀会看護師の寮となっていて夜間緊急時の強い味方が住んでいるという状況にある。もう一つの大きな特色は、職員全員が常勤職員で占められパートは一人もいないことである。職員の定着度の高いこともうなずけるし、利用者が一様に明るいのもうなずける。職員の研修も接遇・感染症・プライバシーの保護など内外の研修、平均して月に2回実施、職員のスキルアップにも力を入れている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の改善課題に「玄関出入り口付近やエレベーターホールに観葉植物や利用者の作品による飾り付けで家庭的な雰囲気を出して欲しい」とあったが、それは完璧に近いほどクリアされていた。狭い空間に目一杯工夫の跡が見られた。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	外部評価の意義や評価内容を運営者・管理者・職員等全員で理解した上で介護の質の向上を目指した改善計画を作成し取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	利用者が、ごくあたりまえの生活が出来るための意見や提案が討議されたり、外部評価における指摘事項や利用者・家族の意見、苦情に対する改善策を話合ったりしている。地域のひととの勉強会を開催する等、サービスの質の向上に活かしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	苦情箱設置を行いながら利用者や家族から受けた意見や苦情は書類で整理して職員会議や運営推進会議に諮り改善に努めている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会の一員として公園の清掃等出来る限り行事に参加して地域の人々との交流に努めている。法人としてだけでなく個人として自治会に入会している利用者もいる。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「利用者の尊厳を守り、自立支援と家庭的な雰囲気の中で地域に開かれたグループホームに、また終末期にも対応出来るように」を理念とし、毎日を笑顔で取り組んでいる。とにかく明るい。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は廊下・居間の目に付きやすい処へ掲示して、カンファレンスやケース会議ごとに理念についての意義や思いを話し合っている。		
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会の一員として公園の清掃等出来る限り行事に参加して、地域の人々との交流に努めている。法人としてだけでなく個人として自治会に入会している人も数名いる。活動は活発である。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の意義や評価内容を運営者・管理者・職員等全員で理解して、介護の質の向上を目指した改善計画を作成し取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には地域包括支援センター・自治会長・民生委員長・地域ネットワーク委員長などの他にご家族・利用者も可能な限り参加してもらい、評価への取り組み状況を報告し話し合いを行い、そこで出た意見をサービスの向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	区役所の担当者に地域の人との勉強会の案内をして参加してもらっている。地域の中での役割や課題について学習して、行政と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、行事の様子や職員の異動を掲載した事業所だよりと共に収支報告を行っている。利用者の暮らしぶりや健康状態については、家族訪問の際や家族会・食事会などを利用して、その時々に応じて報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情箱設置を行いながら利用者の家族から受けた意見や苦情は書類で整理し、職員会議や運営推進会議に諮り改善に努めている。	○	苦情箱は設置してあるが記入用紙、筆記用具、机が用意されていない。改善に関する意見や苦情等を出しやすい雰囲気作りが欲しい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者にとって馴染みの職員が担当できるように異動は必要最小限に抑えている。やむを得ず異動する際には、2ヶ月間の引き継ぎ期間を設けて利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループホーム内での勉強会・法人内研修・外部研修の年間計画(月2～3回)を立て、職員のスキルアップを図っている。介護の質の向上と同時に介護福祉士等資格取得支援も行っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の同業者や大阪市のグループホームネットワークを活用して、年3回程度ではあるが勉強会や職場交流会などを行っている。相互訪問、意見交換等の活動を通じてサービスの質の向上を図っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	サービスをいきなり開始するのではなく、利用者が徐々に馴染めるよう職員が出向いていたり、見学訪問してもらったりしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	毎日の献立表や行事の案内などは、書道を得意とする利用者を書いたり、裁縫の得意とする利用者には繕い物をしてもらうなど、利用者得意分野を發揮してもらいながら共に支え合う関係を築いている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時のアセスメントや日々の拘わりの中で本人の思いや意向の把握に努めている。また把握困難な利用者には、家族や関係者から情報を得たり、東京センターの資料を活用するなど本人本位に検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者の視点に立って、地域でその人らしく暮らし続けるために本人や家族には、日頃の拘わりの中で思いや意見を聞いてカンファレンスを行い、介護計画に反映させている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の期間(3ヶ月、6ヶ月)外にも、利用者本人や家族と話し合い臨機応変に現状に即したサービスの見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて通院や墓参り、外食、日帰り温泉など必要な支援は柔軟に対応している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者本人や家族が希望するかかりつけ医を尊重して連携に努めている。今までのかかりつけ医への受診の送迎は、基本的にはご家族としながらも、職員が援助して適切な医療が受けられるようにしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期のあり方については、理念にも謳われているように医師、看護師、家族との話し合いの機会を持ちながら対応するようにしている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	当法人の介護事業部の研修会に全員が参加して、利用者の誇りやプライバシーを損ねない対応の徹底を図っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れは設けているが、利用者一人ひとりの体調や気持ちを尊重して、本や趣味のものなどの買い物や散歩等利用者自身の希望に添った暮らしの支援をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	昼・夕食作りは配膳・後片付けも含めて利用者・職員の共同作業で行っている。同じテーブルで楽しく食事が出来るよう、雰囲気作りを心掛けている。また食材の買い物にも毎日出かけて、一人ひとりの好みにも配慮している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の中には毎日入浴を希望する人もいるし、一日おきに入る人もいる。利用者一人ひとりのペースに合わせて入浴が出来るよう支援している。利用者の中には、近隣の銭湯へ行き入浴を楽しんでいる人もいる。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの生活歴を活かして園芸・手芸など、それぞれの得意分野で力を発揮してもらっている。書道の得意な利用者は、毎日の献立表を書く事が生き甲斐となっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者が希望する時には、可能な限り時間を設けて散歩や買い物、図書館、美容室など、行きたい場所へ出掛けるようにしている。利用者の自宅への道を散歩経路にする場合もある。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は見守りを徹底し、利用者一人ひとりの状態を把握しながら玄関の鍵を掛けない自由な暮らしを支援している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地域への働きかけは、運営推進会議で協力を依頼しながら利用者と共に、年2回の防災訓練を緊急連絡網・マニュアル等を活用しながら行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの水分、食事摂取量を記録して職員全員が情報を共有している。栄養バランスについては、カロリー計算されたメニューを参考に毎日の献立を考えている。また、それぞれの好みに合った水分補給や栄養摂取にも心掛けている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具や調度品などは出来るだけ家庭的なものを使用している。季節の花や観葉植物や手作り品で飾り付け、採光にもレースのカーテンで和らげるなど、アットホームで居心地よく過ごせるためのきめ細かな工夫がされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者本人にとって思い出の多い写真や、馴染みの家具や小物が持ち込まれている。中には仏壇が持ち込まれるなど、家庭的な雰囲気を出して利用者が居心地良く過ごす事への配慮が伺える。		